

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人 孔子会		
事業所名	グループホームまゆの里		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成31年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、ご家族の願いや希望を一つでも叶え、自分らしく役割を持ち生活していただけるように、職員も共に寄り添い、助け合いながら暮らし、安心できる生活の実現を目指しています。勉強会を通して、パーソンセンタードの理解を深め、入居者の自立支援が提供できるケアを実践しています。環境面では、地中熱を活用し心地よい空調で過ごしていただけるよう努めています。毎月の外出、誕生のお祝いも入居者、ご家族に合わせ対応し支援を行っています。地域との交流では、試食会の手伝いや、足湯カフェの開催で、地域の方と入居者との関わりができていますと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木を活かした落ち着いた和の雰囲気のある事業所です。温泉を利用して檜風呂や足湯が利用者を楽しみを提供しています。同敷地内の法人3事業所があり、組織力を活かした運営となっており、認知症カフェや地域住民を招いての季節行事のふれあい会開催や、認知症サポーターの養成の講師派遣などを行っています。初めての看取りに対する取り組みにも学びを深めています。歴史ある法人の中でグループホーム独自の取り組みが利用者家族に見えにくいようです。今後は若いリーダーの発想とチームの力量が試される時代になると期待されます。マニュアルや関係書類も整備されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と目標は毎朝朝礼時に、理念と目標を交互に唱和し、業務に入るようにしている。	各職員の名札の裏に理念を記し常に携帯しています。管理者は、職員や利用者家族にとって、日々のケアが理念を反映したものになっているかを確認できるようになることが課題であると考えられています。	職員のみならず、利用者家族にも理念の周知と理解を促す試みが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	美化作業、芋煮会、夏祭り、敬老会等に参加し小規模多機能ホームと共同で「ふれあい会」を開催し交流の場を設けている。	法人主催のイベントへの地域住民の参加や、地域の行事への参加、老人会での出しものへの協力が行われています。	日常的に事業所へ足を運んでもらえるように、地域の話し合いに参加したり、事業所からの情報を発信する取り組みが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェや足湯カフェで情報交換を行い、実際にホームへ入っていただき生活の様子を見ていただきながら、相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の生活を報告し、外部研修等の内容や、ミーティングで話し合ったことなども、質疑応答のなかで説明している。	事業所の報告のほか、法人としての身体拘束適正委員会の報告や、誤嚥や熱中症予防や水分補給などの情報提供が行われています。	事業所からの発信だけでなく、運営推進会議での話題が運営に反映されるような取り組みが行われるとよいですね。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ出席していただいている。市主催の地域連絡会、認知症フォーラム、市町村での認知症研修派遣講師派遣等へ積極的に参加している。	法人としての認知症カフェ開催のほか、認知症サポーター養成研修の講師派遣の依頼は、所在する行政だけでなく、他のエリアからもあり応えています。	今後も協力関係を継続されることをきかたします。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の勉強会で、身体拘束について話し合い、毎年実施している。身体拘束はしていない。	法人として委員会活動、ITを導入しての体調管理などに取り組んでいます。管理者は、身体拘束について、より身近なところで職員間話し合いができ、意識の高まりとケアの向上を考えられます。	ITやAI導入されることでの負担軽減が、データからケアに活かす人的な能力の向上と、人の手と感覚を活かしたケアの質の充実につながることを望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会にて高齢者虐待法について、学んでいる。日頃のケアについてもミーティング等で話し合い、ケアの統一に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会にて権利擁護について、学んでいる。また、一名が利用されている、医療関係者、後見人、管理者、計画作成担当者等で話し合いを設け、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、可能な限りご本人も見学に来ていただくように努めている。規約書や重要事項説明書について説明し、不明がないかどうか確認のうえで、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。ご家族へはお手紙を郵送し、運営推進会議等で報告を行っている。	家族からの意見や要望はミーティングで話し合い、結果を当事者家族へ報告しています。	意見要望へのフィードバックは当事者のみならず、事業所通信などを通して、他の家族へもオープンにすることで、言い易い環境作りにつながるのではないのでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、朝礼を活用している。管理者が参加し、職員の意見や提案を聞くようにしている。	職員アンケートや人事面談を実施する中で意見や希望、目標を聞くよう努められています。	地域の会合などに職員が出向くことで、地域密着型介護・グループホームの意義への理解が深まることでしょう。段階的に教育し、そのような機会が職員成長につながるとよいですね。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加は、回覧を回し希望をとっている。また、勤務希望や突発な勤務変更に対しても、柔軟に対応している。外部研修は個人の実績に合わせ、勧めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内で研修会が行われている。個人に必要なと思われる研修には、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修会に参加し、交流できている。外部研修に参加することで、他施設との交流が図れている。ホームへの研修や見学も随時受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集し、情報提供書を読んだうえで、ご本人の様子を観察し、訴えに傾聴している。安心して生活していただけるような関係が築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い具体的に情報収集を行い、傾聴するよう努めている。今後の信頼関係が築いていかれるよう、いつでも、気軽に相談してもらえよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを尋ね、現状がホームで適切であるのかを検討し、対応している。必要に応じて、居宅ケアマネジャー等と連携し、他のサービスが必要であれば、サービスの紹介を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の中にもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が全入居者の実現に向けて、職員も共に助け合い、尊重し合いながら日々の生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント時などは、積極的にご家族へ参加の依頼をし、家族との絆が保てられるようにしている。ボランティアで来ていただくこともある。病院受診等は出来る限り、ご家族対応を依頼し、関係性が絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、釣り堀に外出を行っている。ユニットでの馴染みの関係ができその方と、外食に出かけている。また、知人の面会の為の送迎も行っている。	近隣からの利用者が多いこともあり、兄弟、ご近所さんの訪問などがあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の馴染みの関係性を考慮し、席の配置や環境を検討し、職員の配置も注意しながら配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族の方からホームに来られたり、担当だった職員が、家族を尋ねる関係性も保たれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティング等で検討し、ご本人の意向を聞きとり、できる限り希望に沿ったケアプラン作成に取り組み、いつでも確認できるようにしている。	現在は思いを伝えられる方が多いようです。釣りの好きな利用者に釣堀に行かれたり、その時々々の意向に対応されています。	思いは時と共に変化します。病院や施設からの情報以外にも、自宅を訪問し生活歴を掘り下げたり、思いの変化を記録することで今後の生き方の支援となることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の聞きとりや、情報収集をご本人、ご家族からも面会時など聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体の観察を行うと共に、「できる」「わかる」に着目し、できることは継続できるように、できないことはどう支援をすれば、できるかを検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を踏まえ、各担当者ごとケアマネージャーと話し合い、ミーティング等で出た意見も合わせながら、作成している。	受け持ち制とし、担当者がアセスメントを実施し、アセスメント、ケアプラン作成、モニタリングの一連の流れに対する参加意識と情報の共有が図られています。ケアマネジメント記録と日々の記録が混在しています。	ケアプラン、介護計画が細やかに作成されています。日々の実践記録との整合性が確認しやすい方法の確立と、ヒヤリハットや事故報告の分析を活かした計画策定が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通しSOAPでの記録を実施している。よりよい個別性を出す為には、アセスメントの記録が必要と考えられる為、職員間での情報交換をいつでもできるよう取り組みたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応や、個人的な外出への付添い、また急な夜間での家族との外出にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室へ出かけたり、図書館への外出今までの、かかりつけの病院への受診の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望を確認し、かかりつけ医の希望があれば、継続している。できる限り家族対応にて付き添ってもらい、必要に応じて看護師が同行している。症状に応じて、専門医の受診も行っている。	職員が受診支援を行った時は、主治医の意見や検査結果等、家族にも渡され情報の共有をしています。	今後も主治医、家族、事業所との連携により健康管理と予防に勤められること良いでしょう。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段から連携し相談、対応できるようにしている。異常があれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化や終末期での事前指示書への説明、確認を得たうえで、訪問診療の医師、看護師、相談委員、ご家族との話し合いを行い、病院関係者との関係作りを行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化や病院から戻られた際には、事前指示書の説明をし、本人が難しい場合はご家族との話し合いを行っている。	初めての看取りを経験し、事前に訪問看護師より看取りに対する勉強会や看取り後の反省会が実施されていました。看取りの同意書の確認もできました。	初めての看取りを経験し大きな学びとなったと管理者は認識されています。今後、増えていくと思われる看取りの経験を重ね、更なるケアの充実に繋がる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会で心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。緊急マニュアルに沿って、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人と合同で、防災訓練、自身訓練を実施した。地域との連携を図るよう、取り組みたい。	敷地内に法人の3事業所があり、協力体制ができています。地震や近くに河川があり水害も想定した訓練が行われています。	今後も組織力を生かし地域防災の拠点としての取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、ご本人の誇りや、プライバシーを損ねない、丁寧な言葉かけや接し方をするようにしている。	居室棟やフロアがプライバシーに配慮された設計になっています。職員さんの声掛けもゆっくりと丁寧な対応がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が、自己決定できるよう声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、その人らしく穏やかに生活できるか、入居者に聞きながらできる限り、希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時は、自分が着たい服を選び、難しい方には、職員と一緒に選んで出かけている。女性は好きなアクセサリーをして、男性は背広をきて出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、つぎ分け、配膳、下膳など得意なことを分担し、役割として行っている。	キッチンとフロアが続いており、車いすで台所のテーブルで一緒に下ごしらえを手伝ったり、おやつを作ったり、できる能力の支援がされています。誕生日には特別な日として本人の好みのメニューが提供されています。	今後も食の楽しみの取り組みに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日把握している。特に少ない方は、申し送りで情報共有し好みの、飲み物を勧め、必要水分量に近づけられるよう工夫している。食べる量、塩分量の調整も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔内観察を行い、必要に応じて訪問歯科への依頼を行っている。夜間は義歯を預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをアセスメントし、その方にあったパットの検討、トイレへの声かけの時間を検討し、申し送りで周知している。	日中はサインを見ながら全員のトイレ誘導が行われています。紙パンツから布パンツに改善された方が4人、布パンツに尿取パットの方が5名と日中のオムツ使用はありません。夜間オムツの方もトイレ誘導をされています。	排泄自立の努力がされています。今後も継続されることを望みます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の味噌汁にはさつま芋を入れ、牛乳を勧めたりして、散歩や、下腹部を動かす運動を取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日入浴の希望、時間を尋ね、ゆっくりと入れるようにしている。ADLに合わせて、檜浴、リフト浴を使い分けている。足湯も楽しんでもらっている。	檜の浴槽や機械浴等設備が整っています。入浴拒否の利用者に対しても、工夫して対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備、硬さが選べるマットを使用し、照明の調整ができ空調管理を行い気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも、見られるようファイリングしている。副作用や、観察事項等は申し送りを行い、申し送りノートに記載し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、家族の意向も踏まえ、家事手伝い、下肢筋力低下予防と便秘予防のため、毎日職員と水くみを行っている。歌が好きな方には、数名の方とセッティングし進行をお願いする支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には、ご家族の協力のもと鶴屋デパートへ外出し、生活歴から釣り堀に外出を行っている。ご家族へアンケートをとり、ご家族協力のもとホテルでの敬老会を実施することが出来た。	年間の外出行事が多い中、買い物や散歩、水汲み等個別の対応もされています。屋外に足湯もあり利用されています。地域交流の場にもなっています。	一人ひとりの特別な日や家族にとって大切な思い出になります。それぞれのご利用者に合った特別な日を個別計画に取り入れていけると良いですね。日々の散歩や近所の外出も週間予定の中に入ることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、外出の際は自由に使えるようにしている。金銭を手元に持っていたほうが、落ち着かれる方には、家族了承のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を取り次いで話していたり、手紙も郵送している。また、本人希望があり、家族了承のうえ携帯電話を持参され、家族との連絡を自由に、とることができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムにより、快適な室温・湿度が保てるようにしている。照明は調整しながら不快にならないようにしている。季節感を感じることができるように、飾りや季節の花を飾り、環境作りをしている。	フロアに畳のスペースがあり、ひな壇が飾られています。広いガラスドアから外を眺めるとベランダに石垣に囲われた足湯の場所があり、解放感が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置、畳を活用することでひとりになれたり、職員との一対一の会話を楽しみ、思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンス、ソファ、仏壇を持ってこられ、ご家族の写真やご家族が趣味で作られる、雑貨を飾り、安心して過ごせるようにしている。	生活感のある部屋や機能的な部屋等清潔感があります。	その人らしさを生かした個性的な部屋作りができると良いですね。家族や友人の面会時には部屋でもゆっくり過ごせる空間になるでしょう。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に、必要な方には表札があり、トイレに案内を表示し、自立支援に向けた生活が送れるようにしている。		